

新春  
座談会

# 市長×若手経済人

安来商工会議所 青年部会長  
玉木純一さん

安来市長  
田中武夫

安来市商工会 筆頭副部長  
山本周作さん

## 産官を越えた つながりで 産業育成を

市の経済発展にとって、商工会議所・商工会は必要不可欠な存在です。市内の商工業を担う安来商工会議所青年部、安来市商工会青年部の各代表をお迎えして、田中武夫市長と、これからの商工業をはじめとする産業育成などについて語り合っていました。



## 循環型の経済は コロナ禍だからこそ 必要となります 山本 周作

(株)大正屋醤油専務取締役。安来市商工会青年部筆頭副部長。商工会青年部は、広瀬・伯太町内を中心に営業する45歳以下の青年経済人で組織。現在、会員28人が在籍している。昭和35年に設立し、令和2年には創立60周年を迎えた。地域社会や地元企業の発展のために活動している。



## 商売・行政のプロが お互いに意見交換 できる関係に 玉木 純一

建築板金工事などを行う玉木慶商店を経営。安来商工会議所青年部会長。会議所青年部は、昭和63年10月に設立。現在、会員44人が在籍し、市内で商工業を営む45歳以下の青年経済人で組織している。経営者としての能力向上や地域振興を目的とした事業を行っている。



## 産官学との連携は まちの経済発展 には不可欠です

田中 武夫

令和2年10月の選挙で市長に就任。財政健全化に向け、行財政改革に積極的に取り組む。「次の世代につながる安来市」にするため、市のトップセールスマンとして『オールやすぎ』で、安心・安全な夢のもてる市政づくりを念頭にまちづくりを進めている。

### コロナで必要となる 循環型の経済へのシフト

田中市長（以下、市長） 令和2年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、私たちの生活様式や経済活動が大きく変わりました。どのような一年でしたか。

玉木純一さん（以下、玉木） 5月に安来商工会議所（以下、会議所）青年部に所属する事業者にアンケート調査を実施しました。どの事業者も1割から3割、売上げが減少。飲食業者は特に影響が大きく、8割以上も減少したところもありました。

市長 市としてもその状況を踏まえ、事業者への給付金や産業の下支えとなる支援を行ってききました。特に、飲食業者は影響を受けました。少しでも消費喚起につながればと飲食クーポンなども発行しました。

玉木 会議所青年部同士でも支援し合おうと、独自にチラシを作成して、テイクアウトをはじめめるようにしました。8〜9月になると持ち直し、少しずつ事業者も経営が改善されました。市長 広瀬や伯太を中心に事業を行っている安来市商工会（以下、商工会）の様子はどうでしたか。

たか。山本周作さん（以下、山本）

商工会青年部の中には製造業も多く、影響を受けているところが結構ありました。輸出をしているところでは、約5割の売り上げが落ちた時期もありました。9月に入ってから、会議所と同様に少しずつ回復しています。

市長 コロナの影響で先行きが不透明の時代です。今後も、感染拡大防止と経済対策の両立を図りながら、実効性のある施策を展開していきたいと考えています。

山本 コロナ禍でも、商工会ができることは何かを考えたとき、地域の中でお金を循環させられないかと思いました。コロナ関連の「商業・サービス業感染症対応支援事業」を利用して、自社の小規模な増築工事を行いました。なるべく市内にお金を落とすように、地元の内企業に発注しました。今後もそのようにしていこうと、商工会の会員同士で話をしています。

市長 お互いの事業を助け合うのは、商工会としての趣旨であり組織の強みですね。市内だけでなく、中海・宍道湖・大山圏

域は約65万人の住民が暮らしています。その圏域内で循環する商売ができるといいですね。

**山本** 商工会の会員は小規模な企業がほとんどです。コロナ関連の支援はもちろんのこと、産業サポートネットやすぎ（以下、SSY）の助成制度は、大変ありがたいと思っています。ホームページの作成など、さまざまな事業に利用させてもらっています。

**市長** SSYが掲げている目標の一つに、「市内循環型経済へのシフト」があります。今後も、有効に活用していただければと思います。

### 学校や地域、企業が連携し まちを元気に

**玉木** 働く場という点について言うと、情報科学高校という、専門教育の学校があるのに、受け入れるITなどを生かせる企業が市内に少ないのが弱点ではないかと思っています。

**市長** そうですね。しかし、今は大きな団地を作ってIT企業を誘致するには、お金と時間がかかりすぎます。例えば、公共施設を開放してそこに入ってもらおうとか、誘致できる環境整備を進めようと検討しています。

**玉木** なるほど。情報科学高校

へは県外や、更には関西方面からも入学を希望する人が増えているという話を聞きますので、人材は集まるのではないでしょうか。

**市長** しまね留学という制度があり、情報科学高校へ来たいという若者も多くなっています。ITを生かした個性豊かな人材が、市内で働けるよう、今後も連携を深めていきたいと思っています。

**山本** 安来の高校に市外から入学希望者がいるように、中山間地域も選ばれるようにしなければなりません。

**市長** 人口減少や高齢化が特に進んでいる中山間地域ですが、比田地区はとても元気ですね。なぜ、元気なのか？やはり、地域全体で若い人からお年寄りまで、すべての世代が助け合いながら盛り上げているからです。島根県が進める「小さな拠点づくり（※1）」でも力を発揮してもらっています。

**山本** 比田のまちは良くなりましたね。U・Iターン者やいろいろな人たちが来て盛り上げています。地域住民主体のえーひだカンパニー(株)が立ち上がり、まちに活気ができました。伯太の中山間地域でも何かできないかと思っています。

**市長** 何か核になるものがある

といいですね。例えば、伯太にサテライトオフィスを整備するのもいいかもしれませんね。安来市内全域には隅々まで、ブロードバンド・インフラ整備事業で設置した光回線が通っています。首都圏などの人にとっては魅力です。

**山本** デジタル化が進む中で、首都圏から企業を呼び込むいいチャンスかもしれませんね。

**市長** 必ず、すぐに住んでもらわなくても、関係人口として安来市で仕事をし、用があるときは首都圏に戻るとか。そういうところから始めていくのいいと思います。空き家等を使った企業誘致も一つの方法ですね。

**山本** 市の施策で他に何か取り組んでいるものはありますか。

**市長** 特定地域づくり事業協同組合（※2）を今年、設立する予定です。この設立によって、中小企業者などの担い手の確保が期待できます。

**山本** 中山間地域としては、参加するメリットがありますね。

**市長** 事業者にとっても繁忙期の人手の確保ができることで、事業の維持拡大を推進することができます。ぜひ、一緒に取り組んでいきましょ。

※1 中山間地域で安心して暮



らし続けていくための仕組みづくりのこと。

※2 地域内の事業者でつくる協同組合。組合に加入した事業者は、組合が雇用する人材の派遣を受けることができる。

### 行政・民間の 垣根を越え、若い力で

**玉木** 安来に輝きと未来への期待感をつくろうと、安来庁舎の外壁や敷地内の樹木に、電飾を施した「やすぎイルミネーションどじょナリエ2020」を開催しました。会議所青年部の創立30周年を迎えた平成30年度から毎年開催し、今年で3年目を迎えました。

**山本** 市の予算ではありませんが、商工会も伯太庁舎や広瀬の三日月公園でイルミネーションを行いました。とても評判が良く、毎年やってほしいという要望が挙がっています。



①安来庁舎。6万球を超えるLEDイルミネーションで、庁舎周辺の樹木を彩りました。②伯太庁舎。庁舎壁面と周辺の樹木にイルミネーションを設置。「STOP!! コロナ」の文字をイルミネーションで描きました。③三日月公園（尼子経久像周辺）。公園内の樹木にイルミネーションを施し、広瀬のまちに光の空間を演出しました。

市長 とてもきれいでいいですね。市内のイベントが中止になる中、まちを明るく彩っていただき、大変ありがたいです。

玉木 将来的には、安来市全体を巻き込んで、総称して「どじよナリエ」にしたいですね。例えば、きれいに装飾している家屋や事業所の所有者にも協力をいただきながら、進めることができると考えています。

市長 その発想はいいですね。年を取るとやっとならいいなと思うことも、やらないことが多いかなりがちです。思い立ったらやる行動力は、若い人の魅力ですね。若さに加え、青年部は結束力があると思います。青年部に入ることで、どんな魅力がありましたか。

玉木 青年部に入ったことで、横のつながりができたことは、とても良かったですね。先輩に誘われ、だまされたつもりで入ったら、逆にだまされた感じですよ（笑）。今では、相談し合える経営者同士の仲間がいるありがたさを強く感じています。

山本 先ほど話したように、うちの工場を増築した際には、塗装・板金は広瀬の事業者に、畳は伯太の事業者が発注しました。昔は市外業者に発注していましたが、今は地域の中で仕事

を発注し循環させています。所属してからは、同じ青年部同士のつながりの中で仕事を頼んでいます。同じ経営者として仲間がいるのは財産ですね。

市長 どんな組織でも、入ってみたいと分らないものですよ。若いうちこそ、人とのつながりを作っておくことは大切です。皆さんの所属する青年部のつながりは、まちの経済発展に不可欠です。行政としても、とても心強く思います。

玉木 青年部は商売人のプロの集まりです。私は、行政のプロである市職員、特に我々と年齢の近い若手職員と交流を持ちたいと考えています。手を携えることでまちの発展に必要なことを考えられると思います。

市長 そうですね。市としても、市役所と市内企業の若手職員同士が意見交換や交流ができる場を設けたいと考えています。商工業を始めとする産業育成は、行政の力だけではなく、交流の場を通して将来を担う民間の若者から得た意見を取り入れていく必要があります。

ぜひ、会議所・商工会の皆さんの若さあふれるエネルギーを大きく育てていただき、安来市の発展のために共に歩んでいきましょう。